

1

「子どもの 権利条約」 推進事業

子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」 「参加する権利」がより保障される社会をつくるために

不登校の子ども居場所づくりを受託・実施。学習サポート事業「小河学習館」の運営、非行の子ども自立に向けた「親たちの会」の運営、各種講演会、シンポジウムの開催などに取り組みました。

1-1 非行問題サポート事業

2006年度～
自主事業

非行の子ども自立に向けた「親たちの会」の立ち上げに向けて、「専門家と親」「サポート団体と親」「親と親」の連携、そして相談しあえる環境づくりを探るべく、少年刑務所教育専門官でおられる竹下三隆氏を招いて講演会を開催しました。そのときの呼びかけをはじめとして、2009年2月から親の会の活動を開始しました。

<講演会>

- ・テーマ：ーいじめ・夜遊び・暴力 子どもの行動に悩んでいませんかー
非行の子どもの理解とサポート
- ・日時：2008年12月20日 13:00～15:00
- ・会場：ドーンセンター（大阪府中央区）
- ・講師：竹下三隆さん
（少年刑務所教育専門官・臨床心理士）
- ・参加者数： 44人（延べ人数）



<親の会>

- ・参加者：親、サポート団体、教師、非行問題の専門家・研究者
- ・日時：2008年2月～、毎月第一土曜日（原則として）午後2時～5時
- ・会場：大阪NPOプラザ（大阪府福島区）
- ・参加者数： 12人／1回

2008年度決算額 94,905円（2008年度支出予算額 0円）

【次年度の計画】大阪市の大阪府市民活動推進基金の助成を受け、非行の子どものサポートネットワークを立ち上げます。非行問題の専門家、親、教師、NPOなどの個人や団体が構成します。このネットワークを基盤に、11月に非行問題における家族のサポートについて考えるシンポジウムを開催、また、2010年3月には非行と発達障害について考える講演会を行います。

学習支援事業では、小河学習館における実践を通して、子ども自身が、学習を通してわかる喜びを感じ、一人ひとりが自信を持てるよう取り組んでいます。子ども自身による数学・国語・英語の学習管理とスタッフによる学習カウンセリング、および保護者への教育カウンセリングを通して、一人ひとりの子どもの学力に応じた学習計画を立て、学習習慣を培う指導をていねいに取り組んでいます。

毎週土曜日の授業に加えて、夏の長期休暇には講習も実施しました。所属している子どもたちは大阪府内外という広域からの参加のため、保護者の送り迎えをお願いしています。2008年度の総在籍者数は19名です。2008年度1年を通じて、入館者4名、退館者8名、休館者2名と、2009年3月末時点の学習館利用児童生徒数は11名（休館者含む）です。入館者以外の学習相談者は1組ありました。入館者に比して退館者が多い理由として、「自学自習」の基本的学習習慣を早々に習得後、受験対応向けの進学塾へ転学していく生徒が多かったことが挙げられます。

入館者を増やすための取り組みとして、6月14日に小河学習館の講演会と説明会を実施しました。参加者は3組でした。さらに京田辺市「つくるところ」での学習館実施に向けた取り組みとして、小河勝氏の連続講座を開始しましたが、大阪府教育委員就任に伴い「つくるところ」での学習館実施はやむを得ず中止となりました。

- ・ 日時：毎週土曜日 午後15時～18時
- ・ 会場：エール学園1号館（大阪市浪速区）
- ・ 講師：小河勝氏 他3名
- ・ 参加者数：11名（在籍者数）
- ・ 連携団体：学校法人エール学園



2008年度決算額 4,091,279円（2008年度支出予算額 7,790,000円）

【次年度の計画】学習習慣を身につけた後の生徒のニーズにも応えるため、進学指導も指導内容に取り入れます。また、大学や企業等との連携により大学生の学力低下をテーマとし、秋に講演会を実施します。

大阪市教育振興公社から委託を受け、不登校の子どもの居場所運営、及び保護者のサポートを実施しました。



- ・居場所開設日：火・水・木・土 11：00～15：30
- ・開設場所：中央青年センター
- ・居場所登録人数：5名（参加者の内訳：中学2年生4名、中学3年生1名）

<子どもに向けて>

スタッフや子ども同士のコミュニケーションを通じて、人間関係の構築ができるよう居場所を運営しました。活動場所は居場所内に限定せず必要に応じて近隣の公園等も利用し、日々の集団活動の中で子どもそれぞれが自分の得意を發揮する活動を取り入れるよう心がけました。加えて社会参加に向けた自信を培うため学習や、人間関係づくりに関わるスキルアップに取り組みました。

また日常的な活動に加えて、季節ごとの行事や行事に合わせた調理実習などのイベントも実施しました。イベントの際には、当日の活動のみならず事前のポスター作りや買い物等の準備をも活動の一環とし、イベント参加に対する子どもへの動機付けに重点をおきました。更に、イベントを通じて子ども同士、子どもとスタッフが関わりあうような場面設定を意識して取り入れました。



【実施したイベント】

- 4月～6月：環境整備、卓球大会、スタッフ向け研修
- 7月～9月：子どもネスト会議、シフォンケーキ作り、レンタル体育室
- 10月～12月：段ボールクラフト、カレー作り、レンタル体育室
クリスマス会（お菓子作り）、
- 1月～3月：書初め、DVD鑑賞、大阪歴史博物館見学、お花見

<他機関との連携>

行政機関、医療機関及び登録者の所属学校と連携をはかり、登録者の社会復帰に向けての情報交換や学習・進路支援を行いました。居場所で活動するスタッフには不登校支援に必要な研修を企画・実施し（5回）、それに加えてNPOとして実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（2回）人材育成に努めました。

<保護者や市民に向けて>

大阪市教育振興公社と協働で家族を第一の支援者と位置づけた講演会を甲南大学の羽下先生を招き9月6日に実施しました。また、保護者向けの勉強会を2月4日（水）、28日（土）に実施し専門家を前にした「カウンセリング」というものではなく、保護者同士で情報交換をおこない保護者が孤立することの不安感を軽減できる取り組みとしました。

2008年度決算額 4,638,448円（2008年度支出予算額 4,632,831円）
【次年度の計画】子どもの居場所としての機能を保障しながら、子ども一人ひとりに合った就業や進学といった社会参加へとつなげるプログラムの開発をおこないます。

1-4 子どもの居場所スタッフ派遣事業	2005年度～ 自主事業
----------------------------	-------------------------

子ども支援に必要な研修を企画・実施し、それに加えてNPOとして実施する各種勉強会へ参加したスタッフを、子どもの居場所を運営するNPOなどに派遣しました。多様なスタッフを派遣することにより、「いろんな考え方の人たちがいる。私は私のペースでいいんだ。」という安心感(自己肯定感)が得られたという子どもの声がありました。

スタッフ向けの研修会では、遊びや触れ合いを通してメンタルフレンドとだけでなく、参加者同士の人間関係(コミュニケーション)も深まるような関わり方が学べるよう、多様な研修会やワークショップを企画・実施しました。それに加えて、不登校の子どもをサポートに必負な専門性を高めるため、各地で実施された研修会や学習会などに参加する機会を提供しました。

※派遣スタッフ スキルアップ研修

実施月	スタッフ研修内容
8月	「登校拒否・不登校を考える夏の全国合宿 in 佐賀」に参加
8月	当会主催「子育て家庭支援スキルアップセミナー」に参加
9月	アドベンチャーカウンセリング体験
12月	当会主催「非行の子ども理解とサポート」に参加
3月	子どものケース検討ワークショップ

2008年度決算額 1,266,000円（2008年度支出予算額 1,800,000円）
【次年度の計画】さまざまな背景をもった子どもたちに適切に、また柔軟に対応ができるよう継続したスタッフの研修を企画・実施をします。また多様なスタッフを継続的に派遣できるようHPで常時スタッフの募集を実施します。さらに、大学や専門学校へ行って新たなスタッフの募集方法を実施します。

2

次世代育成 支援事業

誰もが安心し、自信を持って子育てができる環境をつくるために

地域の中で大人も子どもも共に育ち合う環境づくりをめざし、新たなコミュニティとして子育て支援の拠点施設を運営。また、保育士や地域の子育て支援スタッフ向け研修会や、一時保育を通じた子育てサポートなどを行いました。

2-1 つどいの広場「ゆう」運営事業

2008年度～
受託事業

寝屋川市保健福祉部こども室からの事業委託を通して、2008年10月1日より、寝屋川市立三井小学校の余裕教室を利用し、つどいの広場「ゆう」を運営しています。つどいの広場「ゆう」は、おおむね三歳未満の子どもとその保護者を対象とし、週5日、火曜日から土曜日の午前10時から午後4時まで開設しています。時間中にはいつでも利用でき、子どもがスタッフや地域のボランティアの人たちと遊んだり、親同士の交流を深めたりしています。また、子育てや地域の情報なども提供しています。

毎月、「食のおしゃべり広場」（栄養士のスタッフによる食に関する個別相談）を開催しました。また、子どもたちが遊んでいる間にできるイベントとして、12月はクリスマスリースと三角帽子作りなどを企画し、安くて簡単に作れると喜ばれました。

2009年3月末現在、登録者が378組、利用者数が延べ1861名となりました。お互いに顔見知りになったお母さんたちも増えてきたようです。「ゆう」は全国でもまだ少ない、小学校で開設している地域子育て支援拠点です。1年2組の教室の隣にある「ゆう」に遊びに来る子どもたちは、楽しい小学校の雰囲気を感じているようです。利用する親にとっては「ゆう」に遊びに来ることでだんだん親同士の交流が広がっているようです。同じ地域の中で支えあっていける関係ができ、地域の人たちが子育て家庭を応援することができれば、子どもも親も安心して育つ環境を整えることができます。そして、つどいの広場「ゆう」が子育ての安心を次の世代へと繋いでいくことを願って、運営しています。

- ・ 開設時間：火・水・木・金・土の10:00～16:00
- ・ 会 場：寝屋川市立三井小学校普通教室棟1階（寝屋川市）
- ・ 参加者数：1,861名（延べ人数）

内訳：おとな839人、子ども1022人



2008年度決算額 2,640,103円（2008年度支出予算額 2,625,500円）

【次年度の計画】ボランティアの参画を促進するため、支援者講習会を開催します。さらに、父親の参画がしやすいよう、父親向けのプログラムも取り入れます。利用者数が増加していることもあり、地域のネットワークや人材を活かした広場活動を進めていきます。

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変わってきています。そんな中、「子どもとその家庭をサポートする仕事」がクローズアップされています。一方で、子育て支援に関わる人たちにはただ子どもを保育するだけ、見守るだけではなく子育て中の親へのサポートや、よりよい子育て環境をつくるため地域への積極的な働きかけが求められるようになってきました。

この研究会では、子育て・家庭支援についての「基本的姿勢」「スキル」「知識」。子どもと子育て中の親の気持ちに分かって、よりよい関係がつかれる…そんな新しい支援者の姿を模索していきます。

また、子育て環境の変化と時代のニーズに応えるため、小出まみさんの『地域から生まれる支えあいの子育て』を参考に、子育て・家庭支援者のスキルアップセミナーも開催しました。このスキルアップセミナーをきっかけに、関西子ども文化協会では様々な家庭支援者が繋がり、互いの現場立場を理解し合い、意見を交わし合い、高め合っていくためのネットワークを立ち上げ、後日、セミナーのふりかえりの会を開催するなどの交流を進めています。

<講演会>

- ・テーマ：子育て・家庭支援者スキルアップセミナー 子育て支援が地域を創る
- ・日時：2008年8月30日（土）～31日（日）
- ・講師：8月30日（土）午後2時～午後4時
「どうちがう？子育て支援と家庭支援」林 真未さん（ファミリーライフエドゥケーター）
コーディネーター：橋本真紀さん（聖和大学教育学部幼児教育学科専任講師）



8月31日（日）午前11時～午後4時

ワークショップ「子育て支援が地域を創る」

ファシリテーター：NPO 法人えんばわめんと堺 北野真由美さん

- ・会場：ドーンセンター（大阪市中央区）
- ・参加者数：35人（延べ人数）
- ・連携先：聖和大学教育学部幼児教育学科専任講師
橋本真紀さん
NPO 法人えんばわめんと堺



2008年度決算額 88,300円（2008年度支出予算額 210,000円）

【次年度の計画】研究者、NPOと共に、子育て・家庭支援の従事者のスキルアップのための研修について、引き続き研究していきます。

NPO・企業とのコラボレーションによる事業「共育（ともいく）」とは、世代間を越え、地域の中で大人も子どもも共に育ちあう関係づくりをめざし、JR学研都市線「松井山手駅」前で、子育て支援センター「つくるところ 京阪東ローズタウン共育ステーション」を運営しています。「つくるところ」では、オリジナルプログラムを考え、子どもと親・地域との関係づくりをサポートしていきます。コンセプトを実現するプログラムとして、「つくる」プログラムを積極的に導入、様々な「つくる」プログラムを通して、子どもたちの「自主性」や「創造力」、「協調性」「コミュニケーション能力」を育むことを大切にしています。

<プログラム>

▽子育て中の親をサポートする子育て応援プログラム

生後3か月から小学校4年生までを対象に、一時保育や講座保育、月極め保育などの保育事業や、放課後クラブといった学童保育にも取り組んでいます。仕事だけでなく、リフレッシュや通院、お稽古事に通うためなど、幅広い目的で利用いただいています。また、親子でゆっくり過ごすことのできるおやかフェや、育児用品の交換ができる「いちごバザール」なども随時開催しています。

- ・ 保育登録者：144名
- ・ 月極め保育登録者：14名
- ・ 一時保育年間利用者数：245人（延べ人数）
- ・ 保育者登録数：20名
- ・ おやかフェ年間利用者数：1,666人（延べ人数）



(2008年度末現在)

放課後クラブメニュー：オリジナルプログラム、おえかきひろば
なんだろ？おもしろ！オプスあそび研究所



▽子どもや親、地域の人たちの関係づくりをテーマにしたスクールプログラム

地域の方々や「つくるところ」のスタッフが企画した講座、また、外部のパートナー企業やNPOが実施する講座など、バラエティ豊かな講座を展開します。親子で一緒に楽しめる講座や集まってきた地域の友達と一緒に活動することで創造力を広げ、コミュニケーションの力を育みます。幼児から小学校中学年までの子どもを対象にした「食育」「アート」など、創造的なプログラムを多彩に提供しています。



おとな講座：初めてのタイ式ヨガ、ゴスペル教室、ほんわかクッキング

ともいくサロン～はなすところ・そだつところ～

おやこ講座：サンドアート、親子でハッピー・タッチタイム

こども講座：キッズキッチン



- ・つくるところ会員数：ファミリー会員 20 組（人）、大人会員 60 人、子ども会員 22 人
- ・ボランティア数：25 人（延べ人数）
- ・年間利用者数：3,890 人（延べ人数）
- ・連携団体：NPO 法人プラスアーツ、京阪カインド（株）、京阪電気鉄道（株）、（株）DAI

（2008 年度末現在）

2008 年度決算額 24,489,319 円（2008 年度支出予算額 30,400,000 円）

【次年度の計画】保育事業では月極めの保育内容の充実を図り、一人一人の子どもの育ちを大切にしたい丁寧な保育に努めます。スクールプログラムは子ども、母親対象だけでなく、父親を対象にしたプログラムも充実、さらに地域の人たちを講座講師に招いたり、子育て世代とシニア世代との交流プログラムにも取り組んでいきます。キャンプなどのアウトドアプログラムから、地域住民を中心に学生などのボランティアの活動場面を拡大して、企画などの運営への参画の機会を増やしていきます。

保育グループ”カシオペイア”では、保育を通した子育てへのサポートをめざし、「こどももおとなも、ありのままでゆっくりと」をモットーに活動を行っています。

行政・企業・団体などからの保育依頼は、2006年度25件、2007年度31件、2008年度43件と増加しています。主催者からの問い合わせに対し、会場の事前下見、保護者から子どものアレルギーなどについて確認するカードの提出、子どもの年齢に応じた保育スタッフ数の確保とスタッフミーティングなどの事前準備を重ねて当日の保育に備えていることが、継続しての保育依頼や他団体への紹介などにつながっていると思います。市民に向けては保育ボランティアの受入れを行っています。募集はホームページやインファノ、チラシ等を通じて随時行っています。

- ・対象：子育てサークル活動時、子育て支援講座や学習会、セミナー、コンサート、イベント時に一時保育を希望する主催者
- ・日時：申込に合わせ随時

保育グループ「カシオペイア」が大切にしていること

**こどももおとなも
ありのままでゆっくりと**

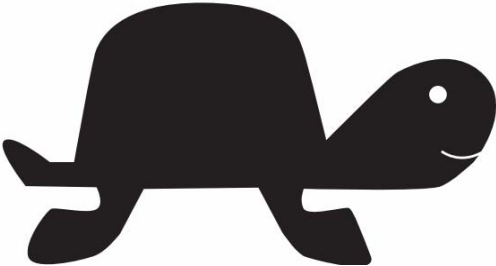
その子がその場所で
ゆっくりとお母さん・お父さんを待てるように。
子どもたちは不安や寂しさを
泣くこともあります。
そんな時でも、楽しめる時間が持ってもらえたら。
色々な年齢の子どもたちと少しでも刺激しあえたら。
そんな思いで保育をしています。

★ お問い合わせ ★

NPO 法人 関西こども文化協会
〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20
大阪 NPO プラザ 207 号
電話：06-6460-1621
FAX：06-6460-1628
E-mail：office@kansaikodomo.com
HP：http://www.kansaikodomo.com

**一時保育
のご案内**

保育グループ カシオペイア



※一時保育案内パンフレット

2008年度決算額 571,001円 (2008年度支出予算額 500,000円)

【次年度の計画】

利用者にとって利用しやすいよう料金体系を見直します。また、保育者の日程調整・保育に向けた事前準備・保育当日・事後報告の流れをよりスムーズにし、保育者にとってより安心して保育当日を迎えやすい体制を整えます。

2-5 大阪・次世代育成応援事業

2006年度～
受託事業

大阪府次世代育成支援室少子対策課からの事業委託を通して、子育て環境の改善や整備に向けての取り組みを進めてきました。具体的には、2006年度から①大阪・次世代育成応援サイト e-life navi②子育てミーティング③シンポジウム④事例集の4事業を実施してきました。しかし、2008年度は大阪府の予算削減の結果、本事業が7月末で終了することになりました。8月以降の取り組みについての打合せをした結果、8月以降はサイト内容のほとんどを大阪府のサイトに移行させることになりました。また当会においても、次世代育成応援のためのサイトを引き続き運営する当初からの予定の通り、当会サイトに移行する内容についての検討をし、当会サイトではc-life navi (community life navigation) と名称を変更し継続して運営することになりました。大阪府のサイトへ移行するものと、当会サイトへ移行するものとの精査を大阪府との協議により決定し、本事業は7月末の終了を迎えました。

8月以降は、c-life navi と名称を変え、主に当会イベント報告や子育て中の親向けのお役立ちリンク集の提供をしました。

2008年度決算額 1,262,000円 (2008年度支出予算額 1,262,000円)

【次年度の計画】

ホームページリニューアルに伴い、c-life navi のページも新規作成します。

2-6 「イマパパ子育て講座」連続講座

2008年度
自主事業

夫婦で参加し、かつ男性が「仕事と育児のバランス」を考えながら、子どもと交流する機会を増やすことによって、男性自身も自分らしく生きていけるよう応援するプログラムの開発や具体的な実践を通じた夫婦と親子のコミュニケーションを円滑にすることを目的とする、2回連続講座を開催しました。第1回目は「イマパパの遊び方」をテーマに、父親の役割や子どもとの遊び方について参加者と一緒に講師との交流を通して学ぶ機会となりました。第2回目は「イマパパの離乳食作り」をテーマに、実際に離乳食作りを行いました。講座ではレシピを参加者に配布したこともあり、実際に作ってみましたという報告も講座終了後にいただきました。

- ・対象：30歳以上で、父親となった男性とそのパートナーと、子ども（1歳6ヶ月未満）
実際には、30歳未満の父親の参加もありました。
- ・日時：2008年11月1日、11月30日 いずれも10:00～12:00
- ・会場：ドーンセンター（大阪市中央区）
- ・講師：小崎恭弘氏（第1回目）
小松洋子氏（第2回目）
- ・参加者数：4家族（延べ数）
- ・連携団体：財団法人大阪府男女共同参画推進財団
ドーン利用促進事業共同体
NPO法人スマートらいふネット



希望する全ての人々が安心して子どもを産み育てられる社会の実現を目ざし、女性が年齢に関係なく、自分らしく生きていけるよう応援するプログラム開発や仕組みをつくることを目的に、NPO法人スマートらいふネットと協働して3回連続講座を開催しました。3回ともワークショップを取り入れ、参加者同士で不安や悩みの共有をし、保健士の経験を持つ講師らの専門的知見も踏まえた講座を通して、「自分を見つめ直すことができた」「色々な意見が聞けてよかった」「共感できて嬉しかった」という感想がありました。



- ・対象：35歳をすぎて、妊娠・出産・子育てを希望している女性または、30歳以上で、今すぐではないが、近い将来に妊娠・出産子育てを希望している女性、そしてその女性のパートナーの男性(実際には男性の参加はありませんでした)。
- ・日時：2008年6月27日 19:00～21:00
7月11日 19:00～21:00
7月25日 19:00～21:00
- ・会場：ドーンセンター（大阪府中央区）
- ・講師：松本聡子氏（第1回目）
落合世津子氏（第2回目）
毛受矩子氏（第3回目）
- ・参加者数：21人（延べ人数）
- ・連携団体：NPO法人スマートらいふネット



【次年度の計画】文部科学省の「女性のライフプランニング支援総合推進事業」の中で助成を受け、「ライフプランニング手帳の作成と活用」事業を行います。連絡協議会を組織し年に4回の会議を通して、家族や地域で支えあいながら、仕事・子育て・介護の両立をサポートするための手帳の作成と活用をします。

年間を通して保護者からの問い合わせ、申し込み受付をおこなう事務局の専従スタッフと、保育者のシフト・謝金支払い・おやつ発注などの業務を担当するスタッフが、日常的に連絡を取り合いながら、子どもの年齢・人数・初めての保育かどうかなどを考慮して、きめ細かい保育体制をとることで、安心・安全の保育をおこなってきました。ドーンセンターの保育利用者は、講座や会議の参加、ライブラリーでの閲覧、相談など多岐にわたるため、「子どもの視点にたった保育のあり方」を最優先にしながら、保護者の子育てを応援するために、保育のはじめと終わりにどのように声をかけをすればいいかを大切にしてきました。

そのことが利用者の継続につながったと考えています。

2008年度の総申込者数は、358名、総利用者数は299名でした。保育1回あたり平均3～4名の利用となります。

昨年度と比べ申込者・利用者数共に減少しましたが、今年度は講座保育をドーンセンターが開催しない期間があり、その期間に講座保育利用がなかったことが主な理由として考えられます。



保育の質の向上のための保育者研修として、2月20日（金）に「支援～子育て中の女性を支援する一時保育事業とは？～」を実施しました。女性センターや公共施設などの保育業務担当職員にも呼びかけをして研修会を開催しました。

乳幼児とその保護者を対象に、2回連続のイマパパ流子育て講座を実施しました。第1回目は神戸常盤大学の小崎恭弘氏を講師に招き、遊び方講座を実施しました。第2回目は、関西福祉科学大学の小松洋子氏を講師に招き、離乳食講座を実施しました。

詳しくは次世代育成支援事業2-7参照。



<2008年度受託事業内容>

- ・ 保育申し込み受付業務・保育者配置業務（当会事務所にて）
月曜日～金曜日 13：00～17：00 メール・電話・FAX・郵送
- ・ 一時保育受付業務と保育（ドーンセンター3階こどものへやにて）
毎月第2・第4火曜日 9：15～12：30、毎週木曜日 9：15～12：30、13：15～16：30
- ・ ドーンセンター主催講座実施日の一時保育
- ・ こどものへやを活用した企画提案、保育者研修、一時保育事業の活性化に向けた提言など。

2008年度決算額 1,641,243円（2008年度支出予算額 1,946,700円）

【次年度の計画】大阪府と協議を重ねた結果、2009年5月から毎週木曜日午前中の保育を再開することになりました。大阪府の予算縮減の中、料金体系の変更、利用日時等の変更はありましたが、ドーンセンターでの一時保育を通じた子育て支援へ、引き続き参画します。

3

企画・情報 提供事業

子どもの権利条約に適う教育や子育てに関する情報を 伝え、意識を高め、市民の取り組みを促進するために

今、社会で課題となっていることをテーマに情報誌「インファerno」を定期発行、また、ホームページ、パンフレットのリニューアルにも取り組みました。親や子どもの声に耳を傾け、子育てを取り巻く環境の変化と共に、団体の活動を分かりやすく伝えることで会員や支援者の拡大に努めました。

3-1 情報誌「インファerno」

1999年度～
自主事業

子どもの今をみつめ、未来を育てる情報誌として、「インファerno」を定期発行しています。子どもや若者の声に耳を傾けることを念頭におき、現代の子どもを取り巻く「少年非行」「学力問題」「いじめ」などの様々な問題に対して、専門家・研究者による提言と合わせて、NPOや行政・企業などの取り組みの現状と課題を社会に発信していきます。また、「子育て支援」「次世代育成」に関する行政や企業、NPOの情報を掲載、親や教師などの支援者にも役立つ内容をめざしています。少子化が加速する現在、子育てや教育は社会全体の課題です。そのことから、今年度は、その時々社会の中で話題に上がったテーマで特集を組みました。

第25号	特集	講座報告	子育て支援情報
	テーマ：「ゆとり教育見直し」から考える 公教育のゆくえ <座談会> ●公立小中学教師が語る、「ゆとり教育」とこれからの公教育 ●「ゆとり教育」は見直されたのか 心配なメタボ型「新学習指導要領」	大阪・次世代育成応援事業 子育て NPO フォーラム 「今求められる子育て支援とは？」～連続した子どもの育ちから考える～	「施設」運営から「まち」づくりへの展開を図る 共育プロジェクト：京阪ローズタウン子育てステーション[つくるところ]が発信する、子育てを応援するまちづくり。
	シリーズ Childrens Participation 子どもの社会参加	P・T・C「子どもについて、最近思うこと」	
	核兵器廃絶・平和を願う高校生たちの一万人署名運動〈第2回〉	Parent(親)：Teacher(教師)：Citizen(市民)それぞれの立場から語って頂きます	
第26号	特集	講座報告	子育て支援情報
	テーマ：子どもが笑う行政施策 大阪府財政改革がめす方向はどこへ 中川 幾朗(帝塚山大学教授) 現場は今・・・①私学助成金削減の影響 現場は今・・・②国際児童文学館 廃止・移転で失うもの	NPO 発・女性の行き方応援プログラム 「35歳からママになる！！」	「子どもも親も育つ」子育て支援とは 一地域子育て支援拠点事業に見る、子育て期の意識と可能性
	シリーズ Childrens Participation 子どもの社会参加	「つくるところ」がつくるもの	
	核兵器廃絶・平和を願う高校生たちの一万人署名運動〈第3回〉	つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]の現場情報	

第27号	特集	講座報告	子育て支援情報
	テーマ：秋葉原事件を機に考える 家族の病理と子の自立（前編） ケース1 子から見た家族 ケース2 父親から見た家族 青少年による殺傷事件を通して考 える家族の役割 前川 哲治 （特定非営利活動法人ストレスカウ ンセリング・センター 理事長）	「不登校～いま、家 族にできること～」 一番身近な支援者とし て、親や家族が、不登 校の子どもにどう関わ っていけばいいのか考え る。	子育て・家庭支援者 スキルアップセミナー 「子育て支援が地域を創る」 画一的な内容の子育て支援 ではなく、地域性を生かした 子育て支援とは何か、また、 そのような子育て支援を担 う人材の育成に取り組んだ。
	シリーズ Childrens Participation 子どもの社会参加	「つくるところ」がつくるもの	
	核兵器廃絶・平和を願う高校生たちの一万 人署名運動〈最終回〉	つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション] 現場情報	

2008 年度決算額 570,167 円（2008 年度支出予算額 700,000 円）

【次年度の計画】次号は「子どもの貧困」で特集を組むなど、今、社会で課題とあがっているテーマを取り上げていきます。また、積極的に現場取材に出かけていくことや、新たな企画、編集のスキルアップにも努めていきたいと考えます。

3-2 支援者・利用者拡大事業

2008 年度
自主事業

支援者・利用者の拡大を目的に、「ボランティアをしてみたい」「子どもに関わる団体を応援したい」「関心がある」「相談したい」という人にとって、よりわかりやすくなるようホームページとパンフレットを作成しました。それと同時に、ホームページ・パンフレットのテイストに合致するような団体ロゴも作成しました。

ホームページ・パンフレット作成にあたっては、特にユーザーや手に取った方にとっての見やすさを重視し、かつ団体の強みもアピールできるよう心がけました。作成にあたっては、大阪ボランティア協会の「社会変革 NPO のための会員・支援者拡大プログラム in 関西」による助成を受け、研修会や、鶴尾雅隆氏（株式会社ファンドレックス代表取締役）のコンサルティングにより、団体の特徴をどのように表現するか、ホームページ・パンフレットでの見せ方、強調、工夫する点などのアドバイスをいただきました。さらに、ホームページ・パンフレット作成についての技術協力については、株式会社ロックオンの全面的協力により、構成・見せ方・イメージに至るまで詳細な打合せを実施し、ホームページ・パンフレットをリニューアルしました。

- ・リニューアルに向けた準備期間：2008 年 9 月～2009 年 3 月 31 日
- ・連携団体：株式会社ロックオン、社会福祉法人大阪ボランティア協会

【次年度の計画】ホームページの情報掲載の充実を図るために、広告のページを作成します。広告は企業だけでなく、NPO にも呼びかけ、双方向の情報発信に取り組みます。また、子どもの教育や子育てに関心を持つ市民を増やしていくために、活動に参加しやすい呼びかけに工夫し、子どもをサポートするボランティアの活動を促進していきます。

4

教育・子育て 調査事業

教育や子育ての事例やデータを蓄積・研究し、取り組みに生かすために

各地で開催される研修会やセミナーに参加しました。また、子ども支援に関係する団体を訪問し施設や支援現場の見学も行いました。

4-1 各種学習会、研修会への参加

1999年度～
自主事業

各事業の取り組みにいかすため、各地で開催される学習会や研修会、及びシンポジウム等に参加しました。

参加プログラム	場所	参加日
Microsoft NPO Day 大阪	大阪	2008年5月11日
NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会定期総会	東京	2008年6月7日
NPO 法人 ビーのびーの訪問	東京	2008年6月8日
育て上げネットシンポジウム	大阪	2008年7月18日
登校拒否・不登校を考える 夏の全国合宿2008in 佐賀	佐賀	2008年8月2日、3日
学齢期の子どもと家族への支援 ～スクールソーシャルワーカーへの期待～	大阪	2008年8月23日
セカンドステップ研修会	大阪	2008年9月6、7日
「子育てひろば立ち上げ支援セミナー」東京開催	東京	2008年9月23日、24日
TPC「子どもの貧困」シンポジウム	大阪	2008年9月12日
大阪市 SC SSW 研修	大阪	2008年9月22日 10月1日、16日
セミナー「市民自治と市民参加 自治会は変革する」	大阪	2008年10月25日
新・公益法人制度学習会	大阪	2008年11月14日
セミナー「現代の非行や虐待から考えること」	大阪	2008年11月27日
神戸大学大学院子育てセミナー	兵庫	2008年11月13日
大阪市 CB コンサルティング (全5回)	大阪	2008年12月～2009年3月
ほっとスペース事業 メンタルフレンド全体交流会	大阪	2008年12月2日
子ども子育てNPOフォーラム 「育ちの劣化の流れを変えていくために」	京都	2008年12月6日
みんなで子育て応援フォーラム	広島	2009年1月23日
新・公益法人制度学習会	大阪	2009年3月17日
『非行』を考える全国交流集会	千葉	2009年3月28、29日

5

相談事業

子どもや保護者、支援者の声を聴き、相談に対応して一人ひとりを支えるために

子育てや子どもに関する相談をしたい人、及び「子ども」に関わる活動をしている団体や人の相談にのり情報提供や応援・サポート（中間支援）をおこないました。

5-1 24時間いじめ電話相談事業

2006年度～
受託事業

大阪市教育委員会との協働で、子どもや保護者等からの主にいじめに関する相談を24時間体制で実施しました。電話相談では 1. 相談者の気持ちを受け止める、2. 状況を整理する、3. 相談者及び本人（子ども）に状況に合った具体的な解決策やリファー先を提示し相談者と一緒に解決に向けて考える、ことを重点的に相談を受け付けました。また適切で柔軟な対応が常にできるよう、電話相談員にはケース検討を中心にした研修を企画・実施し（15回）、それに加えてNPOとして実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（2回）人材育成に努めました。

また大阪市教育センターとの振り返りを実施し（9月）、電話相談における支援効果や今後について話し合う機会を持ちました。

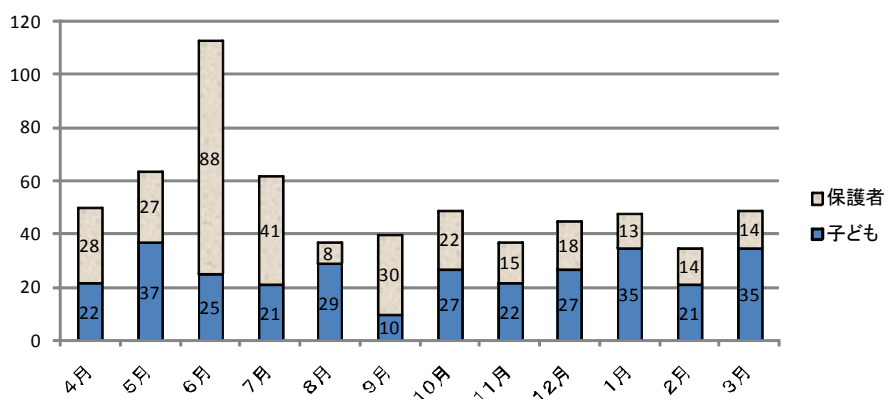
《電話相談実施日時》

- ・日 時：月曜日から金曜日 19：00～翌朝9：00
土・日・祝・年末年始 24時間

《電話相談員定例研修実施日時》

- ・日 時：毎月第4水曜日 19：00～2100

24時間いじめ電話相談 受付件推移 (2008年4月～2009年3月まで)



2008年度決算額 31,954,194円 (2008年度支出予算額 30,600,000円)

【次年度の計画】相談者の状況に合わせて柔軟に対応できるよう、引き続き相談員の養成をおこないます。また今まで受け付けた相談を基にデータ分析を行い、電話相談独自の役割を検討していきます。

6

市民活動コー ディネート・ネッ トワーク事業

他の NPO との連携や、NPO と企業・行政の協働の
コーディネートで、市民活動の活躍の場を広げ基盤を
強化するために

市民活動拠点施設である大阪 NPO プラザの運営協議会や
ONPサポートプログラムのサポーターとして、立ち上げ期
他の入居団体をサポートしました。また、子育て・教育関係
の NPO の立ち上げ支援だけでなく、行政や企業からの相談
にも応じています。

6-1 子育てひろば立ち上げ支援セミナー

2008 年度
自主事業

財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会が主催する、1 月 28 日と 29 日の 2 日間にわたって開催された「子育てひろば立ち上げ支援セミナー」大阪開催の事務局を担当しました。今回のセミナーでは秋田から鹿児島まで広範囲からの参加があり、2 日間でのべ 504 名の方に参加していただき、子育てひろばの基本的な意義と役割を学ぶとともに、4 つの分科会では各テーマに即した実践事例や調査報告が行われました。

- ・テーマ：支えあいの子育て支援拠点を

わが町にもつくろう！

- ・日時：2009 年 1 月 28 日 13：30～17：15

1 月 29 日 10：00～12：30

- ・会場：ドーンセンター

＜大阪府立女性総合センター(2008 年度現在)＞（大阪市中央区）

- ・主催：財団法人こども未来財団

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

- ・後援：厚生労働省・(社福) 全国社会福祉協議会・大阪府・大阪市

(社福) 大阪府社会福祉協議会

(社福) 大阪市社会福祉協議会

- ・参加者数：504 名（延べ人数）

- ・事務局：NPO 法人関西こども文化協会



【次年度の計画】次年度は、(財)こども未来財団から子育て NPO 研修事業の近畿開催を受託、11 月に開催を予定。子育て支援の充実を目的に、地域で子育て支援活動を活発に展開している子育て NPO 活動者の資質の向上を図るため、子育て NPO 活動者に対して活動プログラムなどの研修を実施します。

インターン等の受け入れ

大阪経済大学 3回生 5名

企業実習、ビジネス・インターンシップの授業の一環として受け入れ

・8月11日から8月31日（実質実習日数 14日間）

実習内容		実習内容	
1日目	ガイダンス	8日目	「ドーンセンター」保育実習 3名 「不登校の居場所」実習 2名
2日目	事務局実習	9日目	事務局実習
3日目	「つくるところ」実習	10日目	「不登校の居場所」実習
4日目	「つくるところ」放課後クラブ実習	11日目	「ドーンセンター」実習
5日目	事務局実習	12日目	事務局実習
6日目	事務局実習	13日目	「不登校の居場所」実習
7日目	事務局実習	14日目	まとめ

大阪市若者自立支援事業 コネクションズおおさか 3名

仕事体験の一環として、3人を実習生として受け入れ

実習内容	
11月27日	資料発送作業

大阪 NPO センター 地域貢献型社会起業家養成プログラム 2名

社会事業インターンシップの一環として受け入れ

・2月中のそれぞれ4日間

実習内容	
2月9日	ガイダンス 2名
2月12日	つくるところ[京阪東ローズタウン] 1名
2月17日	子育てタクシー研修会 1名、つどいの広場ゆう 2名
2月20日	保育者研修 1名 「今、求められている子育て支援～子育て中の女性を支援する一時保育事業とは？」
2月25日	つどいの広場ゆう 1名
2月28日	ほっとスペース中央 不登校の子どもがいる保護者のための学習会&トーク 1名

その他個人での受け入れ 学生 1名

インターンシップ生として受け入れ

・2月中の4日間

実習内容	
1日目	ガイダンス
2日目	「つくるところ」実習
3日目	「不登校の居場所」実習
4日目	「ドーンセンター」実習